

～キャリアの軌跡～

創刊号

2008年12月24日

長崎大学医学部・歯学部附属病院

医師育成キャリア支援室 発行

Careerという単語は面白い。経歴、履歴という意味。生活手段としての（特に専門的な）職業。その職業での成功や出世の意味。発展するという意味。At full career 全速力で！動詞では、疾走する、突進する。ここでインタビューをする人達は、すでに完成したキャリアを持っている人たちではない。今、走り続けている人たち、全速力で。今からスタートラインに立つあなたのために（医学生や研修医の皆さん）、僕が聞いてみた、キャリアの軌跡を。

長崎宝在宅医療クリニック 院長 松尾誠司 先生



（インタビュアー&文 医師育成キャリア支援室 浜田久之）

浜田：こんにちは、今日は第一回のキャリアの軌跡ということで、ユニークな経歴の持ち主の松尾先生にお願いしました。松尾先生の簡単な略歴を教えてください。

在宅医療のトップランナー

松尾：長崎大学を卒業し、平成5年に第一外科へ入局し、大学と嬉野国立病院で研修をしました。その後関連病院を十数年回り、京都の神野医院で3年間在宅医療を学んだ後（当時は、九州では在宅専門医療はほとんどなかった）、長崎市の井上病院で大学と連携しながら2年間在宅医療を実践し、本年10月在宅専門医として開業しました。

浜田：まずは、なぜ外科へ進まれたのですか？

松尾：外科に僕が入ったのは、もともと忙しく働くのが好きであり、外科へのイメージとして、バタバタ働いたり、緻密な外科手術ができると思っていたからだと思います。実は、医者になったのが30歳を過ぎていましたので、かなり迷ったのですが、でも自分がやりたいことをやりたかったですね。

研修医時代に学ぶことはすべて役に立つ

浜田：研修医時代を振り返ってみてどう思われますか？

松尾：研修医時代は、とても重要ですね。どの病院で研修するかも大事ですが、誰に教えてもらうかが一番重要ですね。当時は、“どこの医局に入るか”までは選択できましたが、その後はどうなるか分からなかったですね。それでも不安はなかったですね。面白かったですよ。

今、在宅をやっているんですけど、研修医時代に学んだこと全てが役に立っています。研修医時代に学んだ手技だけでもやれるのが在宅医療なんです。逆に、それをちゃんとやっておかなければ何もできないとも言えます。高度な専門的な技術は医者には必要ですが、在宅医療になると、病院ではありませんから、高度な技術を行うことはできません、研修医の時に学んだしっかりした診察技術とか処置技術が非常に役に立つのです。だから、研修医の時に学ぶ知識と技術は非常に大事で、それができないと在宅医にはなれないと思います。

浜田：研修医のころから在宅（当時はそういう言葉もないと思いますが）とかに興味があったのでしょうか？

松尾：そうではありません。やはり普通の研修医と同じように、立派な外科医になりたいと思っていました。しかし、10年くらい経ち立派な先生の上手な手術をみると、＜自分には、できないなあ～＞とか、＜あと何年もかかるだろうなあ～＞などと思い始め、自分の年齢的なこともその時、考えるようになりました。

浜田：今、松尾先生は在宅のトップランナーとして走っている訳ですが、それは何かの転機があって在宅をやろうと思ったわけですか？

患者さんの後姿が僕の人生を変えた

松尾：大学病院などの大きな病院に勤務している時に、化学療法などをやるわけですね。当時は化学療法専門外来などないわけですから、私みたいな下っ端が外来で点滴をとるわけですね。そんなとき、患者さんが、（きついんだよ）、（家では大変なんだよ）とボソッと本音をいったりするんですね。そして帰っていくその背中を見ながら考えてましたね。たぶん、家では相当つらいんだろうなあとか、この化学療法本当にしていいんだろうか、効いているんだろうか、続けるべきなんだろうか・・・と下っ端なりにいろいろ考えるんですよ。その人の予後とか人生を考えると、化学療法を続けるにしろしないにしろ、在宅での治療ができれば患者さんのためになるのではないかと考えました。だから、当時辛そうに家に帰っていく患者さんの後姿をみながら、家での治療がやれる医者がいてもいいのではないかと考えていましたね。

浜田：では、実際に在宅医療の仕事の内容を教えてください。

松尾：まずは、入院の患者さんの退院支援をします。病院側が患者さんの外科手術、化学療法、放射線療法などがある程度終わった段階で、私たちが、安心して家へ帰れるように整備をします。まずは、患者さんに安心して家での生活や治療ができることを説明してそのイメージを描いてもらいます。（どうぞ、安心してお帰りください）ということ私たちが提示することが大切です。次に外来治療ですが、ヘルパーの方やケアマネ、訪問看護師や在宅医師と一緒に支え、体調をできるだけ良くして病院の外来へ通えるようにします。即ち365日24時間体制でご自宅へ往診を行いながら点滴をしたり、処方をしたり、外科的処置をしたり化学療法を大学とタイアップして行ったり、腹水や胸水も自宅で抜いています。在宅療養においてオピオイドを使用しながら疼痛コントロールを行い、他の不快な症状も取り除いていきます。このように手技的なこともですが、さらには患者さん自身やご家族の心の支えになることに努めます。むしろこの事が肝心で症状コントロールは出来て当たり前、更には患者さんや家族のスピリチュアルペインに対してのケアが大切となります。このようなことをまずは携帯電話に直接かけてもらいながら連絡を取り合って往診をしています。

浜田：また、亡くなる患者さんもいらっしゃると思いますが、病院で亡くなる場合とどう違うのでしょうか？

松尾：病院との違いはたくさんあります。年間60～70例の患者さんを看取り

ます。看取り率（在宅で診て、最後は家でなくなる）は85%です。どうしたら、最後まで家で過ごせるかということですが、患者さんの症状のコントロールや精神面のフォローまた家族の精神的なサポートなども非常に重要となってきたり、病院での入院と違った面での質の高いケアが必要となります。

考えることが重要、考えないと何も始まらない

浜田：学生や研修医の先生にとって、先生のキャリアはユニークだと思いますが彼らへメッセージをお願いします。

松尾：どの診療科に進もうとかまわないと思いますが、いつか人は亡くなるということを忘れないで欲しいと思います。医師としての仕事は命を救うことはいくらでもありませんが、いつかは患者さんが亡くなり、その患者さんが、病院で亡くなるのかご自宅で亡くなるのかを考えてほしいと思います。その時に、ご自宅を選択した場合、どういう風にサポートするかも考えて欲しいですね。まずは、考えることが大事ですね。考えると、病院だけに患者さんがいるわけでないに分かりますし、分かれば在宅の医師に相談もできます。

浜田：先生の今までたどったキャリアを振り返ると、先生は何が大切だったと思われるか？

松尾：僕のキャリアに関しては、長崎出身ではありますが、大学へ入るのが長かった。7年浪人した訳ですが大学へ入り外科へ入局した。たぶん、指導医の先生方は苦労したと思います。自分より年の研修医に教えるわけですから。感謝していますね、そういう私を鍛えてくれた先生方には。また、もうひとつの出会いが、私に在宅医を勧めてくれた神野先生ですね。彼は長

崎大学出身なのですが、京都大学の心臓血管外科に入り10年目くらいに在宅専門医になったという人です。

実は、たまたまですが、彼は私が7年浪人していたときの家庭教師だったんです。私にとっては、この出会いは重要だったんですね。

最も大切なのは出会い

浜田：出会いは重要であると？

松尾：そうですね。医師としてではなく、人として、出会いは重要です。医局での指導医との出会い、患者さんとの出会い、神野先生との出会い、全てが私にとって重要であり、今ここにいるのは、その出会いのおかげですね。外科医でそのまま続けても多分頑張っていると思うのですが、道が変わったことで、今私は非常に楽しく仕事をしていますし、自分に合っていると思います。だから、みなさんとの出会いに感謝しているんです。第一外科教室、神野先生、井上病院の先生方との出会いがあったからこそ、今日の前にいる患者さんとの出会いがあるんです。この患者さんとの出会いは、すぐに別れが来る場合もあります。今から亡くならうとしている患者さんとの出会いは本当に様々なエッセンスを含んでいて、本当に大切です。

浜田：ありがとうございました。是非、これからは、学生や研修医や若い先生方と関わる教育へ参加して、刺激を与えてください。

松尾：喜んで参加しますよ、私も母校を大切に何らかの形で協力していきたいと思っています。



インタビューを終えて

松尾先生のオフィスには、小さな自転車があった。往診で使ったりするそうだ。バイクや車も使い24時間フル活動。楽な仕事ではないと思う。しかし、人がやらないことに情熱を持ってやる姿は、かっこいい！

キャリア支援室からのお知らせ

2009年2月21日(土)に『研修医・修練医のための実力アップセミナー～救急&エコーざんまい!!～が開催されます。

救急・エコー・手技の3つのセクションで計43名応募したところ、多数の応募がありました。ありがとうございました！

残り救急セクションの6名で締め切りとなります。

長崎大学病院以外からも指導医の先生をお呼びしています！

興味をもたれた方は、お早目にご連絡下さい！

行事予定

2009/2/3 (Tue) 18:00~

カナダ マギール大学医学部

サミエル氏を囲む会

『日本と北米の臨床教育の違い』

※サミエル氏は日本語ペラペラです！！

※参加希望者は1月末までにキャリア支援室へご連絡ください。

2009/2/21 (Sat.)

研修医・修練医のための実力アップセミナー

～救急&エコーざんまい!!～@長崎大学病院

医師育成キャリア支援室の場所が、12月25日(木)に移転します！新しい部屋は、旧透析室(第1診療棟 3F)になります。

いつでも遊びに来て下さいね♪

医師育成キャリア支援室のブログ (<http://careerngs.exblog.jp/>) を立ち上げました。ブログにはいろんな情報を載せていますので、みなさんのそいてみてくださいね！

長崎大学医学部・歯学部附属病院

医師育成キャリア支援室

TEL→095-819-7847

FAX→095-819-7882

E-MAIL→career@ml.nagasaki-u.ac.jp